

愛育班活動を促進する活動条件の検討

佐々木 明 子¹⁾、宮 地 文 子¹⁾、高 杉 春 代²⁾
邑 田 浩³⁾、原 口 章 子⁴⁾、小 林 裕 子⁵⁾
山 崎 智 子⁵⁾、立 川 満 里⁶⁾

要約：地域母子保健の向上に重要な役割を果たす愛育班活動が有効に機能するには、愛育班員の動機、士気の充実を図ることが大切である。本年度はその活動条件を明らかにするため、愛育班活動にかかわる市町の保健婦の事例、活動を行っている班員の意識と行動を分析した。1、班員は40代前半が中心であるが各年齢層に広がっており、そのことで活動の幅がひろがる。2、班員の健康度が高いことが活動の継続に欠かせない。3、班員が活動に喜びや楽しみを感じることや、自分の健康や家族の健康に関心が高まった、新しい友達ができたとのメリットが得られることが、活動の継続意識につながる。4、単身の班員においては活動によって友達ができること、有家族の班員においては、家族の理解や協力得られることが大切である。5、保健婦など行政側は、各愛育班組織の発達段階を見極め、それに応じた対応と、班員個々に対するきめ細かな対応が望まれる。

見出し語：愛育班活動、活動条件、組織の発達段階、班員の動機、士気の充実、目標の明確化

研究目的・方法

地域母子保健の向上に重要な役割を果たす愛育班活動が有効に機能するには、愛育班員の動機、士気の充実を図ることが大切である。その活動条件を明らかにするため、埼玉県内の山間部、農村部、都市部の4市町において、愛育班活動にかかわる保健婦との事例検討及び愛育班員(629人)の意識と行動の調査を行った。調査時期は、平成元年11月から12月である。

結果・考察

1. 班員年齢

平均年齢48.3歳、最小年齢26歳、最長年齢78

歳であり、年齢階層別では40代前半(21.2%)50代前半(15.7%)、40代後半(15.4%)の順で多かった。40代、50代を中心にして30代、60代まで分布していた方が、ライフサイクル毎に活動を広げることができ、縦断的な活動につながると考えられる。

2. 健康状態

非常に健康16.1%、まあ健康69.6%と両者をあわせ健康であるものの割合が8割以上を占め、全国の調査¹⁾の70.8%に比べ、班員は健康度の高い集団であるといえる。

1)埼玉県立衛生短期大学 2)三郷市 3)小鹿野町 4)菖蒲町 5)杉戸町

自覚症状12個中の平均保持数は1.3個である。その内訳は、第一位は背中や腰が痛む25.1%（全国41.1%¹⁾）第二位は疲れやすい23.1%（全国50.4%¹⁾）第三位は昨日の疲れが朝まで残る18.4%（全国49.9%¹⁾）であり、またよくよする、いろいろな事などの自覚症状も全国¹⁾に比べ保持率が少ない。このことから、活動の継続には、班員自身が健康であることが必要条件であり、班員自身の健康度を高める健康教育的アプローチも必要とされる。

3. 職業

主婦35.3%、農業、自営業各16.2%、パート15.1%等の順である。なんらかの形で就業している者が62.9%を占める。一ヶ月の平均活動日数は2.4日のため、就業しながらも活動を継続できる状況にあるといえる。

4. 活動してのメリット

活動に喜びや楽しみを感じていることがまず大切であるが、自分や家族の健康に関する意識が高まった、新しい友達が増えた、市町の保健事業に理解が深まったなどのメリットがあり、これらが、継続意識につながっている。

5. 家族の理解、協力

約6割の家族が活動に非常に協力的か理解を示しており、有家族の班員においては、家族の理解や協力が得られること、単身の班員においては活動によって友達ができることが活動を継続していく原動力となっている。

6. 継続意識

今後も続けたい13.8%、できれば続けたい33.5%であり、約半数近くが続けたいとしている。

続けたくないという回答には他者にも体験し

てもらい地域の中に活動の輪を広げたいとする者もあり、活動を肯定的に捉えている者が多い。

7. 愛育班活動以外の社会活動

あり52.5%、なし47.5%でほぼ半数が何らかの形で社会活動を兼務している。内訳の第1位は青少年グループ・子ども会・婦人会・PTA等56.1%であり、班員の横のつながりを通して地域ぐるみの子育てに果たす役割が期待される。

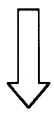
8. 行政側の役割

保健婦など行政側は、各愛育班組織の発達段階を見極め、それぞれの段階に応じた働きかけを行っていく必要がある。また、班員個人が保健婦と個々に接点を待つことを望んでいることから、組織全体に対するアプローチと共に班員個人に対するきめ細かい対応が望まれる。また、組織の活動目標を明確に位置づけられるよう援助することも大切である。

今後の課題

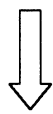
母子保健事業を効率よく運用するには、行政側と民間機関、組織が円滑に機能することが重要である。母子保健に関する組織の中でも歴史のある愛育班活動が有効に機能するには、班員の動機、士気の充実を図り継続意識を高める条件づくりが重要であり、今回、いくつかの条件が検討された。今後は、これらの活動の受益側の住民の意識を探り、母子保健事業を効率よく運用する上で、母子保健組織活動が果たす役割と位置づけをさらに明確にしたい。

文献：1)厚生省大臣官房統計情報部編：保健衛生基礎調査、昭和54年



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:地域母子保健の向上に重要な役割を果たす愛育班活動が有効に機能するには、愛育班員の動機、士気の充実を図ることが大切である。本年度はその活動条件を明らかにするため、愛育班活動にかかわる市町の保健婦の事例、活動を行っている班員の意識と行動を分析した。1、班員は40代前半が中心であるが各年齢層に広がっており、そのことで活動の幅がひろがる。2、班員の健康度が高いことが活動の継続に欠かせない。3、班員が活動に喜びや楽しみを感じることや、自分の健康や家族の健康に関心が高まった、新しい友達ができたなどのメリットが得られることが、活動の継続意識につながる。4、単身の班員においては活動によって友達ができること、有家族の班員においては、家族の理解や協力得られることが大切である。5、保健婦など行政側は、各愛育班組織の発達段階を見極め、それに応じた対応と、班員個々に対するきめ細かな対応が望まれる。